

兵衛志殿女房御書

建治三年三月二日 五六歳

先度^{せん}仏器^どまいらせさせ給ひ候ひしが、此の度^{あま}此の尼御前大事の御馬にのせさせ給ひて候由承り候。法にすぎて候御志かな。これは殿はさる事にて、女房の^計はからひか。昔^{じゅうどう}儒童菩薩と申せし菩薩は、五^ご茎^{きょう}の蓮華を五百の金銭を以てかひとり、^買定^{じょう}光菩薩を七日七夜供養し給ひき。女人あり、瞿夷^{くゐ}となづく。二茎の蓮華を以て自ら供養して云はく、凡夫にてあらん時は世々生々夫婦とならん、仏にならん時は同時に仏になるべし。此のちか^誓ひくちずして、九十一劫の間夫婦となる。結句、儒童菩薩は今の釈迦仏、昔の瞿夷は今の^{やしゅ}耶輸多羅女、今法華經の勸持品にして具足千万光相如来是なり。悉達太子檀特山に入り給ひしには、^{こん}金泥駒・^{てい}帝釈の化身・^ま摩騰迦・^{じく}竺法蘭の經を漢土に渡せしには十羅刹化^けして白馬となり給ふ。此の馬も、法華經の道なれば、百二十年御さかへの後、靈山浄土へ乗り給ふべき御馬なり。恐々謹言。

三月二日

日 蓮 花 押

兵衛志殿女房